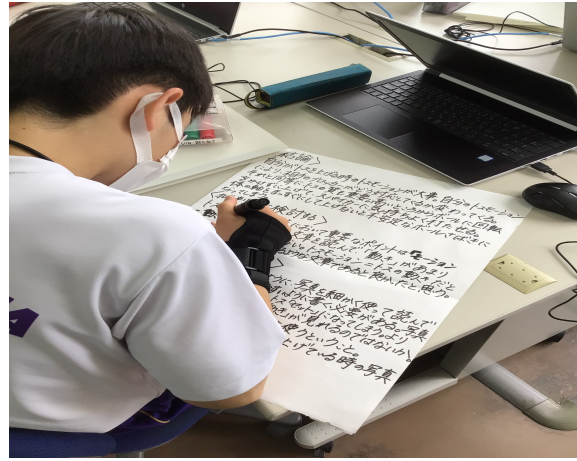
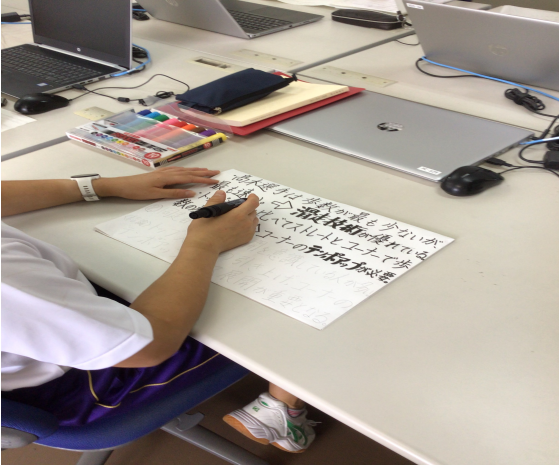
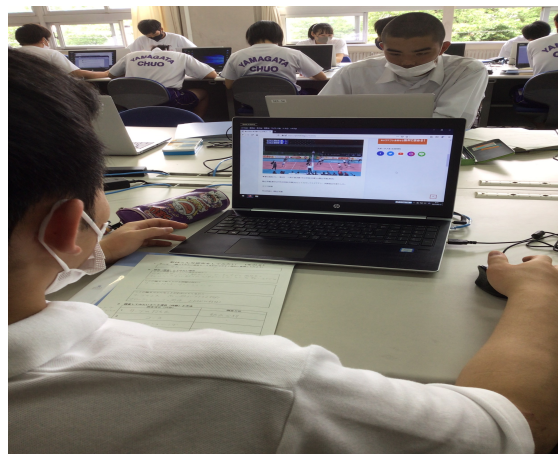


スポーツ総合演習

勝負強さの根にある人間力を上げるためには、「自ら考え、解を出して行動し、結果に責任を持つ」ことが必要だと思います。賢者は歴史（先人）に学ぶという格言がありますが、歴史を辿り一つの分野を掘り下げ、「共通点と違い」を探求するというものでしょう。体育科生はスポーツ総合演習を通じて、多くの卒業生から「成長メソッド」を学び、探求することができます。現在、2年生は、偉大な成績を残した先輩方の卒業論文の先行文献についてまとめ、ポスターセッションで発表する準備をしています。



3年生は、卒業論文の発表に向けて、文献的調査、実験を通じた仮説検証、調査研究等を行って、養っている「知力」を次の勝負につなげています。



『令和2年度研究 体育科卒業論文のこれまでの歩みと今後の探究活動』のなかで体育部長の佐藤孝夫先生は、「卒業後日本のトッププレイヤーや全国的な指導者となっているような卒業生は、高校時代からしっかりした理論に基づいて考え、実践に移していた」という調査結果をまとめています。

また、卒論作成をスタートした当時の校長である加藤稔先生は「競技力や精神力の涵養にのみ毎日の時間を割き、往々にして、スポーツを科学的に分析したり、考察したりすることが、日常活動の中で埋没したり疎かになる傾向がある。」と述べています。力を出しきれない時は、焦ってしまい「知」の準備が疎かになってしまいう傾向があるようです。常勝山形中央を創造するためには、何かを得ることよりも、今ある大切な何かに気づくことで一步を踏み出せるのではないのでしょうか。

次の勝負へ向けて、はやる気持ちもありますが、亀のように素直謙虚の一步を踏みしめて、先人の教えを噛み締めながら探究し続けることで進むべき道の光がみえるかもしれません。練習着ではなく、制服で受ける日々の授業こそが真の練習です。